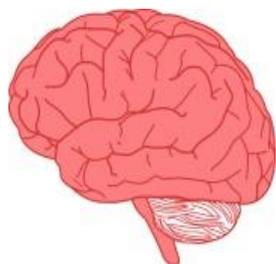


# 新規オプション検査

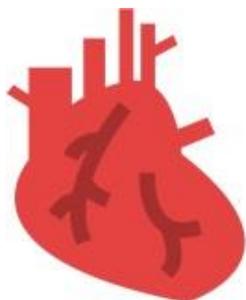
## 脳梗塞・心筋梗塞のリスク検査のご紹介

脳血管疾患・心疾患の年間の死亡者数はがんと同水準。  
「4人に1人」が動脈硬化を一因とする疾患で亡くなっています。



### 脳梗塞

寝たきりの原因にもなる疾患  
「3人に1人」が  
死亡か重度の後遺症に



### 心筋梗塞

突然死の危険のある疾患。  
年間「約15万人」が発症

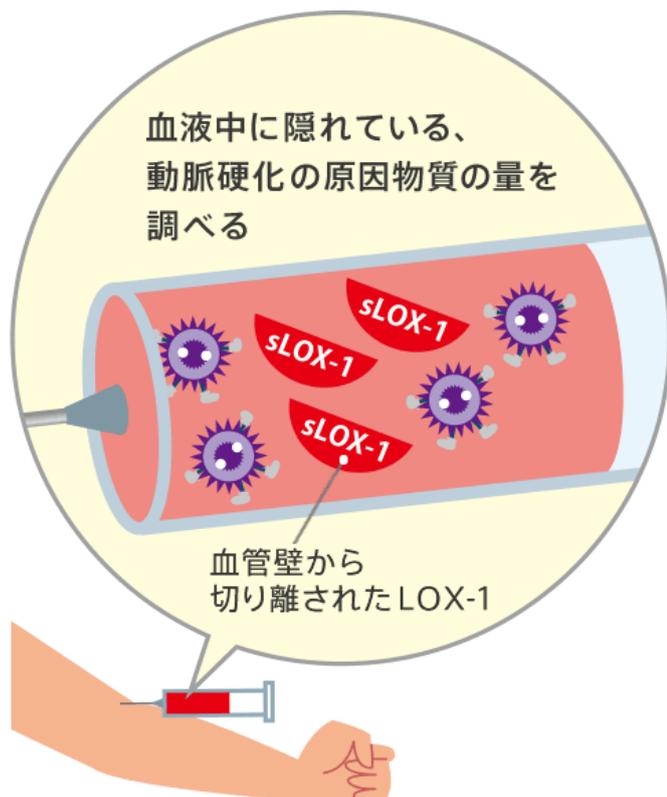
## 血液検査で脳梗塞・心筋梗塞のリスクが分かる 新しい検査「LOX-index(ロックス・インデックス)」

### 検査の特徴

動脈硬化の原因物質を測定  
(酸化変性LDLとsLOX-1)

採血(約2ml)で検査可能

別紙での検査報告レポート  
(約2~3週間での発行)



検査費用：¥12,000(税込)

# 結果報告書 (サンプル)

発症リスクのレベルを  
分かりやすくグラフで記載。

生活習慣改善のための  
アドバイス別冊子つき

LOX-index®・超悪玉・心筋梗塞発症リスク検査報告書

★氏名 demo様 ★受診日 2014/12/24  
★カルテID 000001 ★性別 男性 ★年齢 45

総合評価グラフ

脳梗塞・心筋梗塞発症リスクは **中** です。

動脈硬化の初期段階は、超悪玉コレステロール(LAB)と悪玉コレステロールの担い手であるLOX-1が結合することにより起こると考えられています。そのためLOX-index®は、LABとLOX-1を測定・検出することで、動脈硬化の初期段階を捉えることができます。また日本国内で行われた臨床研究の結果、LOX-index®が高いほど将来の脳梗塞発症率は約3倍、心筋梗塞発症率は約2倍となることがわかっています。LOX-index®は脳梗塞・心筋梗塞の発症リスクを評価できる、唯一の検査です。

総合評価コメント

超悪玉コレステロール(LAB)、超悪玉コレステロールの担い手LOX-1がともに少し高めの結果で、血管障害リスク(血管が傷む危険性)が進行しやすい方向に傾いていると考えられます。高血圧、高血糖、肥満、喫煙など他の動脈硬化リスクを持っている人は、治療や生活習慣の改善によってリスクを抑える必要があります。LOX-1は炎症を上昇しますので、体内に炎症の兆候がある可能性があります。また、LABは体内で活性酸素が発生することで、悪玉コレステロール(LDLコレステロール)が伸びつき生成されます。これらは食生活、運動習慣によって改善できますので、生活習慣を見直しましょう。状態把握のためにも、一年後の再受診をおすすめします。

個別時系列データ

SLOX-1

検査日	2014/12/24	2014/1/1	2013/1/1
値	799	890	1000
評価	中	中	高

LAB

検査日	2014/12/24	2014/1/1	2013/1/1
値	4.5	6.7	9.0
評価	中	中	高

LOX-index

検査日	2014/12/24	2014/1/1	2013/1/1
値	3963	5551	9000
評価	中	中	高

解説

超悪玉コレステロールの担い手LOX-1は、血液中から異物を取り除く働きをします。血管に障害が起こるとLOX-1の生成が促進されるため、LOX-1は血管炎症の指標として利用されています。今回の結果は、前回と同様にLOX-1の値が少し高い状態です。LOX-1は血中から異物を取り除く働きをしているため、酸化LDLなどに代表される動脈硬化の原因物質が多く、血管の炎症が起こっていると考えられます。この状態を改善するには、ストレスを避ける必要があります。メンタルストレスのほか、酸化ストレスにも注意を下さし、食を中心とした生活習慣の改善をお願いします。

解説

超悪玉コレステロール(LAB)は、悪玉コレステロールであるLDLコレステロールが酸化し、サビ付いた状態を示します。LDLコレステロールの一部は活性酸素等の影響によりサビつきます。このサビ付いたLDLコレステロールは動脈硬化を引き起こす原因となります。今回の結果は、前回より改善が見られますが、LABの値がまだ少し高い状態です。要する改善を目指すために、生活習慣を見直しみましょう。また今後、喫煙などによりリスクが上がる可能性が高いため、生活習慣の改善などでLABを下げるよう心がけて下さい。

解説

「LOX-index」は、脳梗塞・心筋梗塞発症リスクを評価する最新の指標です。この結果は、従来の脳梗塞・心筋梗塞発症リスクを大きく左右します。今回の検査結果では、前回より少し改善しリスクは中程度と評価されました。要する改善を目指しましょう。今後、加齢などによりリスクが上がる可能性が高いため、生活習慣の改善などでLOX-indexとLABを下げる必要があります。よりよい生活習慣とストレス解消を心がけて、リスクの軽減に努めましょう。

動脈硬化とは?

動脈硬化のメカニズム

「人間は歳とともに心臓に」

LOX-1を改善するために

LABを改善するために

解説

動脈硬化とは、血管の壁にコレステロールや糖質が蓄積し、血管が硬くなる病気です。血管が硬くなると、血液の流れが悪くなり、心臓や脳に十分な血液が行き届かなくなり、心臓病や脳卒中の原因となります。動脈硬化は、年齢とともに進みますが、生活習慣の改善によって遅らせることができます。特に、食生活や運動習慣の改善が効果的です。また、ストレスの解消も動脈硬化の予防に役立ちます。

動脈硬化のメカニズム

① 血管の内側にコレステロールや糖質が蓄積し、血管が狭くなる。② 血管の壁が厚くなり、弾力性がなくなる。③ 血管が硬くなり、血液の流れが悪くなる。④ 心臓や脳に十分な血液が行き届かなくなり、心臓病や脳卒中の原因となる。

「人間は歳とともに心臓に」

約100年前に比べて心臓のポンプ機能が約50%低下しています。心臓が弱くなることで、血管に十分な血液が行き届かなくなり、動脈硬化の原因となります。また、心臓が弱くなることで、血圧が上昇し、血管に負担がかかります。そのため、心臓を強く保つことが動脈硬化の予防に役立ちます。

LOX-1を改善するために

LOX-1の値が高い方は血管の炎症が進んでいる可能性があります。LOX-1の値を下げるためには、生活習慣の改善が必要です。特に、食生活や運動習慣の改善が効果的です。また、ストレスの解消もLOX-1の値を下げるのに役立ちます。

LABを改善するために

LABの値が高い方は、体内の酸化ストレスが高まっている可能性があります。LABの値を下げるためには、生活習慣の改善が必要です。特に、食生活や運動習慣の改善が効果的です。また、ストレスの解消もLABの値を下げるのに役立ちます。

検査結果に対する総合的な  
コメントや改善の方向性を提案。

過去の検査結果からの  
推移も一覧できる解説付き。

## よくあるご質問

### Q. ロックスインデックスでは何を調べているの？

血液中の酸化した“超悪玉コレステロールLAB”と、それを血管の壁に取り込んで動脈硬化を進ませるタンパク質“LOX-1”の量を測定しています。検査によって得た測定データを“過去の臨床データ”と照らし合わせることで将来の脳梗塞や心筋梗塞の発症リスクを調べています。

### Q. 通常健康診断では問題がなかったが・・・

健康診断は病気になっていないかを早期に発見するものです。ロックスインデックスでは病気になっていない段階から、将来の脳梗塞や心筋梗塞の発症リスクを調べることができます。

### Q. 検査に食事制限などはありますか？

制限はありません。食前や食後に影響なく受診頂けます。

### Q. ロックスインデックスではどのくらい採血されるのですか？

約2~4ml程度です。通常人間ドック・健康診断に併せてご受診頂くことが可能です。

検査に関するお問い合わせ先



☎ 0120-39-5119

(受付時間：月～金曜日 10:00～18:00 祝日除く)

info@nk-m.co.jp

http://lox-index.net/